



COCOLO
プラン3

学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

学校風土の把握ツール

目次



01.背景

02.学校評価について

03.学校風土の把握とは

04.利用者の声

05.ツール紹介

①Q-U/hyper-QU

②i-check(アイ・チェック)

③ASSESS(アセス)

④シグマ検査

⑤子どものための「学校風土調査」

06.試験的な導入等

07. 関連通知の紹介

01.背景

「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」(令和5年3月31日)

1. 不登校の児童生徒全ての学びの場を確保し、学びたいと思った時に学べる環境を整える
2. 心の小さなSOSを見逃さず、「チーム学校」で支援する
3. 学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

① 学校の風土を「見える化」

学校評価の仕組みを活用して、児童生徒の授業への満足度や教職員への信頼感、学校生活への安心感等の学校の風土や雰囲気把握し、学校運営を改善します。
このため、風土等を把握するためのツールを整理し、全国へ示します。

- ② 学校で過ごす時間の中で最も長い「授業」を改善
- ③ いじめ等の問題行動に対しては毅然とした対応を徹底
- ④ 児童生徒が主体的に参加した校則等の見直しの推進
- ⑤ 快適で温かみのある学校としての環境整備

Comfortable,
Customized and
Optimized
Locations of learning

COCOLOプラン

令和5年3月

文部科学省HP「誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)」について
https://www.mext.go.jp/a_menu/shotou/seitoshidou/1397802_00005.htm

02.学校評価について

制度概要

平成19年の学校教育法及び同施行規則改正により規定。

【目的】

各学校が自らの教育活動等の成果や取組を不断に検証することにより、

- ①学校運営の組織的・継続的な改善を図ること、
- ②各学校が保護者や地域住民等に対し、適切に説明責任を果たし、その理解と協力を得ること、
- ③学校に対する支援や条件整備等の充実につなげること

	内容	法令上の位置づけ
自己評価	●各学校の教職員が自ら行う評価	●実施の義務 ●評価結果の設置者への報告の義務 ●公表の義務
学校関係者評価	●保護者、地域住民等の学校関係者が、自己評価の結果を踏まえて行う評価	●実施の努力義務 ●(実施した場合)評価結果の設置者への報告の義務 ●公表の努力義務
第三者評価	●外部の専門家により、専門的視点から行う評価	—

文部科学省の取組

- 各学校や設置者の取組の参考となるよう**学校評価ガイドラインを策定**(平成22年7月)。
- 学校評価の充実・改善に関する調査研究を意欲ある教育委員会等に委託し、**実践的な取組例を取りまとめ、普及**。(平成25年度:8教育委員会)
- 小中一貫教育を実施する学校における学校評価の留意点を盛り込んだ学校評価ガイドラインを改定(平成28年3月)。

教育委員会に求められる役割

①明確な方針の策定

- 明確な**学校教育に関する方針を策定**し、各学校の評価目標との関連を図る
- 各学校の創意工夫に満ちた**主体的な取組を尊重しつつ、統一的な様式や共通評価項目、スケジュール等を例示**するなど、各学校の取組を推進する

②学校評価に関する好事例の普及と人材育成

③評価結果を踏まえた学校運営の改善・充実

- 各学校の学校評価が適切に行われているか検証**し、学校評価を通じた学校運営改善が円滑に進むよう必要な**指導・助言**を行う
- 学校評価の結果等を踏まえ、**学校に対する支援や条件整備等の改善**を行う

各学校における取組の充実

実効性の高い評価とは、教育活動や教育水準の向上、子供の成長につながっているという**有用感のある取組**。そのための参考となる学校による取組例として以下がある。

(1)学校内における取組の充実

- ①学校評価における目標の系統化・重点化
- ②全教職員の参加と協働による学校評価の実施
- ③効率的・効果的な学校評価を行う体制づくり(ICTの活用、学校事務職員の活用等)

(2)学校関係者との連携、協働の推進

- ①情報提供の充実による学校への理解促進と連携強化(HPの充実、学校に触れる機会の提供等)
- ②学校関係者評価委員会の運営の工夫等(学校の現状や課題、改善の手立ての明示等)
- ③**外部アンケート等の工夫(項目の精選、学校の持つ指標・データと対比して活用等)**

児童生徒・保護者対象のアンケート(外部アンケート等)

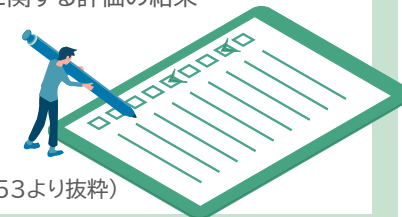
- 自己評価を行う上で、児童生徒や保護者、地域住民を対象とするアンケートによる評価や、保護者等との懇談会を通じて、授業の理解度や保護者・**児童生徒がどのような意見や要望を持っているかを把握することが重要である。**
- (略)アンケート等については、**学校の自己評価を行う上で、目標等の設定・達成状況や取組の適切さ等について評価するためのものにとらえることが適当**であり、学校関係者評価とは異なることに留意する。

[評価項目・指標等を検討する際の視点となる例]

■教育目標・学校評価

○学校に対する児童生徒・保護者の意見・要望等の状況

- 児童生徒・保護者の満足度の把握の状況
- 教育相談体制の整備状況、児童生徒・保護者の意見や要望の把握・対応状況
- 授業など学校に対する評価が実施されている場合、評価を行った児童生徒・保護者の匿名性の担保への配慮の状況
- (データ等)児童生徒・保護者による授業などに関する評価の結果



(学校評価ガイドライン[平成28年改訂]P.4、P.52～53より抜粋)

03.学校風土の把握とは

COCOLO
3
学校の風土の「見える化」を通して、
学校を「みんなが安心して学べる」場所にする

児童生徒がアンケート調査等に回答する。

(質問例)

- 自分にはいいところがあると思いますか。
- 不安や悩みを相談できる先生はいますか。
- スマートフォン等で友達とメールやSNS(LINEなど)でのやり取りをすることがありますか。
- 睡眠時間は平均してどのくらいですか。
- あなたのクラスではみんなが掃除当番や係の仕事を責任をもってしていますか。
- SNS上で仲間外れにされたり、ひどいことを書かれたことがありますか。
- 将来の夢や目標はありますか。
- 授業中、難しい、ついていけないと不安になることはありますか。

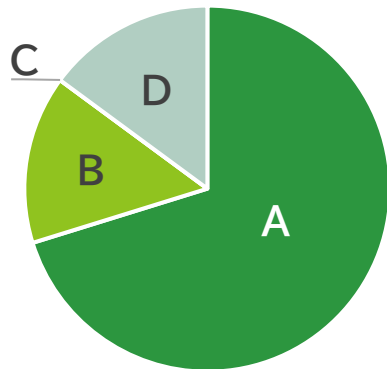
- 教職員の経験年等や考え方等に左右されず、エビデンスのある分析に基づいた対応方針を立てることができる。
- 教育実践を振り返り、修正する手立てとなる。
- いじめ等の諸課題を早期に発見し、不登校を予兆する等、困難を抱える児童生徒を早期に支援することにつながる。
- 児童生徒一人ひとりの心身の状況、学校生活への安心感、喫緊の課題やSOS、学級や学年の雰囲気や傾向が分かる。
- 児童生徒の見えていなかった長所や得意を発見できる。
- 児童生徒が抱える課題の詳細が分かり、スクールカウンセラーやスクールソーシャルワーカー等の専門家等との連携につながる。



実施状況 (令和5年2月時点 児童生徒課調べ)

学校では、学校が生徒にとって生活しやすい風土雰囲気であるかを把握するための生徒に対するアンケート等を実施していますか。

アンケートツール例



Q-U/hyper-QU
子どもの満足感や意欲、集団の雰囲気などを把握し、いじめ・不登校対策や学力向上等に活用できる。

i-check
「レーダーチャート」「散布図」等で、学年やクラスの状況を視覚的に把握。教科学力とのクロス集計も可能。

ASSESS
学習状況や友人関係、本人のソーシャルスキルなど、6領域学校環境適応感尺度で構成されたシートを活用できる。

シグマ検査
学校生活だけではなく、学習・家庭・心身の状態を多面的に調査し、生徒の実態を詳細かつ的確に分析する。

学校風土調査
エビデンスに基づき学校風土を4側面で評価する。課題と強みを明らかにできるWeb調査ツール。

- A : 全ての学校でアンケート等を実施している (学校や教育委員会独自作成のものも含む)
- B : アンケート等を実施している学校がある
- C : アンケート等を実施している学校はない
- D : 教育委員会では把握していない

クラスの概要

出典:i-check(東京書籍株式会社)

クラス全体の結果一覧表

【レーダーチャート】
カテゴリごとに、クラスの状況を把握します。

【名簿】
散布図や度数分布の各カテゴリの回答状況を、個人ごとに示しています。

【個人の心の安全】
散布図から、支援を要する子どもを見つけます。

【クラスの成長力】
散布図から、クラス全体の傾向と課題を読み取ります。

【学級の絆】
度数分布で子どもたちが自分のクラスのことを素直にどう感じているのかを確かめます。

個人の分析

集団の分析

クラス愛

04.利用者の声

実施効果等

教育実践を振り返る機会

- 調査結果を受けて担任等が授業力向上に取り組んでおり、互いの指導力を高め合う中で、職場の同僚性も高まった。
- 生徒の声や実態を正確に反映したデータベースに裏打ちされた実践ができた。
- 自分のクラスの強みと課題が明確になり、何となく感じていたことや自分自身の課題、子どもたちが思っていることがはっきりとした。

経験値等によらない客観的なデータ把握

- ベテランも若手もそれぞれの課題を把握することができ、管理職としてアドバイスがしやすくなった。
- これまで抽象的な表現をするしかなかった取組を数値化でき、具体的な目標として提示することができるようになった。

見えなかったものの見える化

- 学校では楽しそうなのに、生活満足感等が低い子どもの原因は何か探るきっかけになった。
- 学校生活以外の悩みが分かり、早期対応につながった。
- 転勤当初の4月、域内の全学校が導入している共通の調査結果が見ながら、前任校の傾向等と比較しながら学級や学校の様子を把握できた。

その他

- 学校独自のアンケートではあまり答えてくれなかった生徒が、当該ツールのアンケートでは本音を回答してくれた。
- オンライン解説会が分かりやすく、指導方法の参考になった。



活用場面

学校運営、学級運営

- 結果を学年で分析し、授業の在り方や学級経営の指針作りに活用するとともに、学校全体で各学年の傾向を共有している。
- 1回目の実施では、現状から学級経営や学校経営の方針決定や具体策の検討に利用している。年度末の2回目はその効果測定と次年度の学校経営に活かすことを目的としている。

働き方改革

- 年度当初の個人面談の代わりにしている。広く深く生徒の状況が把握でき、かつ客観性があるため大変効率的である。
- 個人票を教職員で共有・分析する中で、担任外の専科教職員との連携やスクールカウンセラー等との役割分担を明確にしている。

年度末、年度初め

- 年度末のクラス替え資料としている。
- 新1年生は、実態を把握するために入学してから早い段階で実施している。
- 前担任が転勤していない際など、子どもの様子を詳しく聞けない状況もあるが、生徒用個人票を見て対応を検討している。
- 人事を考える上で、学校ごとの特徴や課題等を参考にしている。

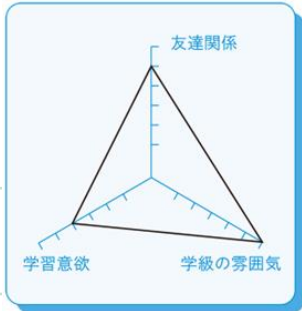
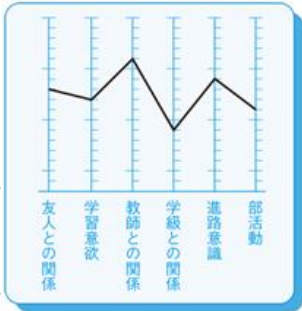
保護者との連携

- 個人面談で保護者と個票の内容を確認し、長所や良いところを伝えている。
- 家庭の様子や生活習慣についての気になる部分を、担任の見立てを補完するものとして活用している。
- 保護者としては、我が子が通う学校の特徴がわかりやすかった。こうしたデータを公表し、学校環境の向上に努めている学校に好感を持たた。

チーム学校

- 調査結果から学年の傾向を分析し、これまでの取組と今後の重点課題を学校運営協議会等で示しており、地域全体で子どもを見守る意識を育てている。

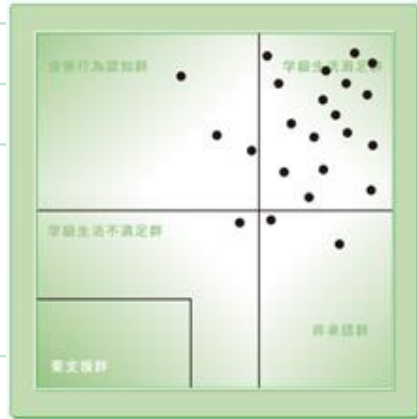
05. ツール紹介① Q-U / hyper-QU

<p>特徴</p>	<p>Q-Uは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」の2つの尺度から、hyper-QUは①「学校生活意欲」、②「学級満足度」、③「ソーシャルスキル尺度」の3つの尺度から構成されており、子どもたちの学校生活における満足度と意欲、さらに学級集団の状態を調べることができるもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> • QUは標準化されていて、妥当性と信頼性が保証されている。 • 充実したアフターフォローがある(解説書籍、協力団体である日本教育カウンセラー協会をはじめとした各地のQU講師ネットワークによる本ツールの活用研修会実施、校内会議で活用できる研修動画等)。 • WEB上でデジタル帳票「QUクイックシート」の閲覧も可能(図書文化の展開する教育プラットフォームへの登録が必要)。
<p>設問数</p>	<p>Q-U小学1～3年用 21問 Q-U小学4～6年用 23問 hyper-QU小学1～3年用 33問 hyper-QU小学4～6年用 39問 Q-U中学用 46問 hyper-QU中学用 64問 Q-U高校用 46問 hyper-QU高校用 79問</p> <div style="display: flex; justify-content: space-around;"> <div data-bbox="982 534 1282 608"> <p>学校生活意欲 プロフィール 小学校</p> </div> <div data-bbox="1303 534 1603 608"> <p>学校生活意欲 プロフィール 中学校</p> </div> </div> <div style="display: flex; justify-content: space-around; margin-top: 10px;"> <div data-bbox="982 625 1282 933">  </div> <div data-bbox="1303 625 1603 933">  </div> </div>
<p>適用学年</p>	<p>小学校1～3年／小学校4～6年／ 中学校1～3年／高等学校1～3年</p>
<p>実施時間</p>	<p>約15分～20分間</p>
<p>実施頻度</p>	<p>年1回～2回</p>
<p>回答方法</p>	<p>マークシート方式 (小1～3年用は調査用紙への直接回答する方式)</p>
<p>価格(税込) ※1人1回あたり</p>	<p>小学中学用Q-U : 各350円(検査用紙125円+コンピュータ診断225円) 小学中学用hyper-QU : 各480円(検査用紙210円+コンピュータ診断270円) 高校用Q-U : 360円(検査用紙130円+コンピュータ診断230円) 高校用hyper-QU : 570円(検査用紙255円+コンピュータ診断315円)</p>
<p>HP</p>	<p>http://www.toshobunka.co.jp/books/feature.php?eid=7</p>

回答結果を受けて、複数の観点からみた個人の尺度が示される。

学級全体の様子が把握できる。(ドットは児童生徒一人ひとりを表す)

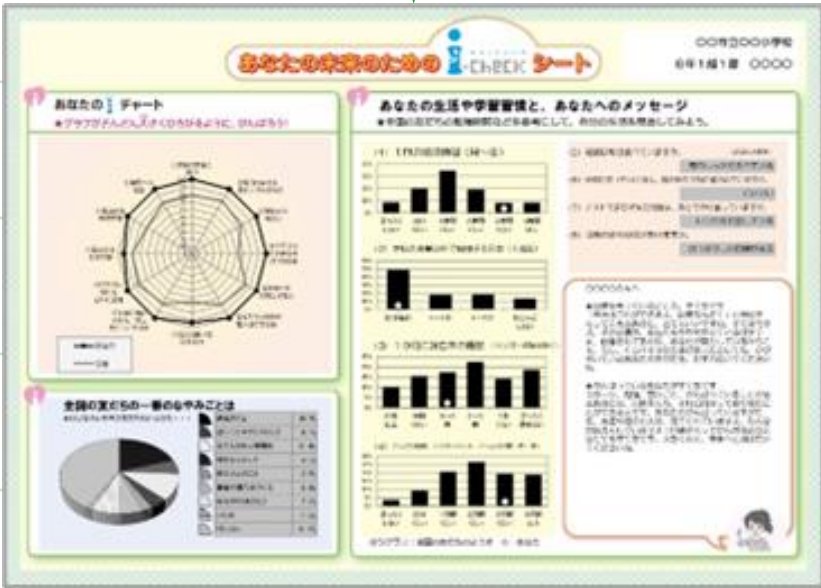
満足度尺度のモデル



05. ツール紹介② i-check

<p>特徴</p>	<p>①自己肯定感等の「自己認識(家族のささえ、友だちのささえ、先生のささえ、成功体験と自信、充実感と向上心、感動体験、他者からの評価)」、②ソーシャルスキル等の「社会性(規範意識、思いやり(人間関係構築力)、発信力、対話・話し合い、社会参画)」、③学級風土等の「学級環境(学級の規範意識、学級の絆、いじめのサイン、対人ストレス)」、④生活・学習習慣(生活習慣・学習習慣・学習意欲)の4観点で構成されており、子供の個性や背景、今の心のありようを、立体的に描き出すもの。</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「レーダーチャート」「散布図」等で、学年やクラスの状況を視覚的に把握する。 ・ 同社発行の学力調査と併用することで、教科学力とのクロス集計が可能(別途契約が必要)。
<p>設問数</p>	<p>小学校1・2年生：54問、小学校3・4年生：75問、小学校5年～中学3年生：93問、 高等学校1～3年生：106問</p>
<p>適用学年</p>	<p>小学校1・2年／小学校3・4年／小学校5・6年／中学校1～3年 高等学校1～3年(高等学校はPBTのみ)</p>
<p>実施時間</p>	<p>約40分～50分間</p>
<p>実施頻度 (年度間)</p>	<p>年1回～2回 (初回はクラス関係が見え始める時期を推奨)</p>
<p>回答方法</p>	<p>質問冊子直接記入方式／ 回答用紙記入方式／マークシート方式</p>
<p>価格(税込) ※1人1回あたり</p>	<p>小・中学校：420円 高校：530円</p>
<p>HP</p>	<p>https://www.tokyo-shoseki.co.jp/academic/n_ichack.html</p>

児童・生徒用個人票



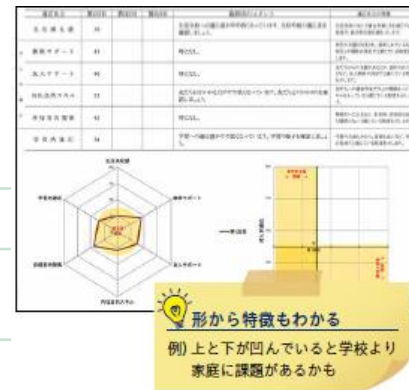
05. ツール紹介③ ASSESS

学校環境適応感尺度「アセス」(ASSESS: Adaptation Scale for School Environments on Six Spheres)は、①全体的な適応感である「生活満足感」 ②教師サポート ③友人サポート ④向社会的スキル ⑤被害感がないかという「非侵害的関係」 ⑥学習的適応 の6観点で構成され、子どもたちの学校における適応感を多面的に測定する。「ASSESS」は子どもたちの学校における適応感を多面的に測定するツールであり、「B-SAFE」はネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、いじめ対策に必要な指導や支援を考えるツール。

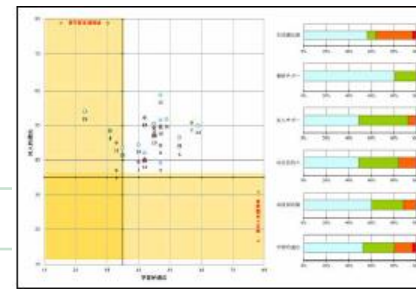
特徴

- 学校での適応感と全体的適応感とのズレから、把握が難しい家庭などの学校以外の場での適応感を把握可能。
- 学級安全調査(B-SAFE)とセットで調査することで、ネットいじめを含むいじめの実態把握に加え、必要な指導や支援を考えることができる。
- アンケート設問数が34問と少なく、短時間で実施が可能。

1. 個別の結果が数値と図で分かる



2. 学級の分布状況が一目で分かる



3. 学級全体で注意すべき児童生徒がだれでどこかが一覧でわかる

番号	名前	生活満足感	教師サポート	友人サポート	向社会的スキル	非侵害的関係	学習的適応	Chifusa
1		50	49	48	45	37	20	0.0
2		33	59	52	57	55	52	0.0
3		54	54	48	55	57	50	0.5
4		50	55	61	54	44	36	1.3
5		30	45	40	33	45	38	1.0
6		52	47	47	49	52	58	1.0
20		49	48	47	48	48	40	0.0
21		32	30	43	52	40	40	0.0
22		60	53	54	47	52	58	0.5
23		31	48	48	49	47	47	0.5
24		55	54					
25		52	50					
25		83	55					

● 百分が、偏差値40-50
● 百分が、偏差値30未満
● の児童生徒はでたらめ

個別支援か集団支援か
注意すべき児童生徒の数がすぐわかるので個別支援だけがいいか、集団支援が必要かすぐ判断できる

4. 特徴と対応策をまとめて表示

設問数

34問

適用学年

小学校3～6年(小1・2用は参考用で提供)
中学校1～3年/高等学校1～3年

実施時間

約10分間

実施頻度

1回でも可能だが、データに基づく教育実践促進のため年3回程度を推奨(5月末、11月、2月等)

回答方法

1人1台端末等を用いてWeb上で回答

価格(税込)

Web版1人あたり：275円(税込)
3回セット：660円(税込)
アセス・B-SAFE年間セット
(アセス3回+B-SAFE3回)：1,100円(税込)
自治体での一括申し込みの場合、すべてこの価格の半額で提供

<https://aises.info/survey assess/#ass-7>

HP

05. ツール紹介⑤ 子どものための「学校風土調査」

特徴

文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」で科学的研究を経て開発された「日本学校風土尺度」をベースとした調査であり、①学校での安全性(安全、決まり)、②教えと学び(授業、こころの教育)、③関係性(子ども同士、子どもと先生、子どもと学校、子どもと集団(多様性・人権))、④環境面(物理的環境、地域・保護者)の4観点から構成されている。

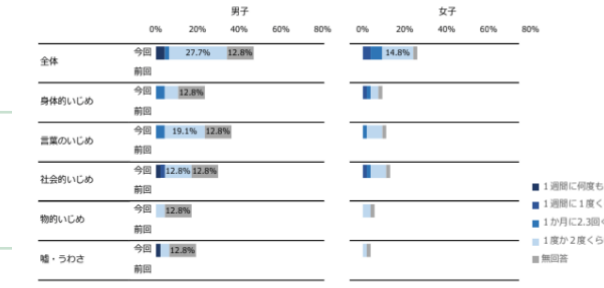
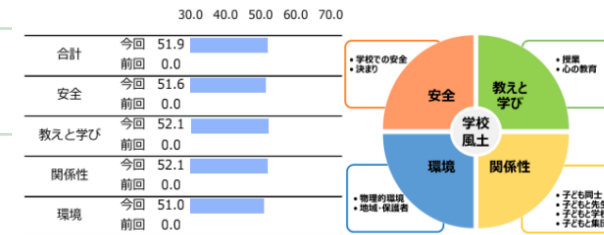
- 「日本いじめ尺度」に基づくいじめ調査も同時に実施可能。
- 結果と併せて、学校風土向上のための方法や教師トレーニングの提案を行う。
- 無記名回答のため、より正確な調査が可能。

エビデンスに基づく各学級や学校の様子が変わり、前回調査との比較を通して学級運営等を見直すことにつながる。

設問数

32問(いじめ調査を含む場合は45問)

合計得点と4つの側面の平均との比較



適用学年

小学校1年生～中学3年生

実施時間

約20分～40分間

実施頻度

年2回を推奨
(3回以上については応相談)

回答方法

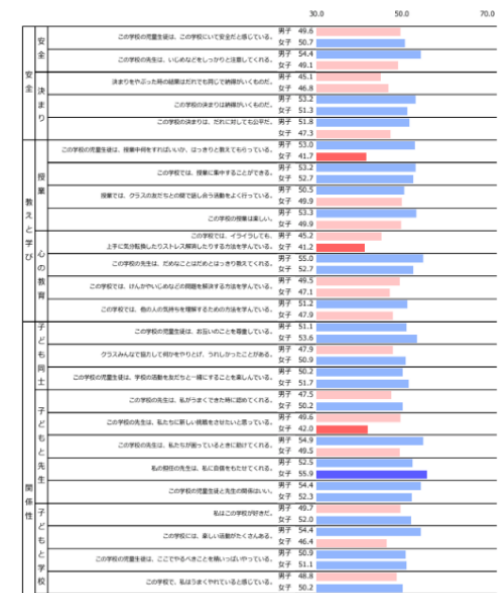
Web回答、無記名式(共用端末利用可能)
※無記名回答のため正確な調査が可能。

価格(税込)

年間1回：1校当たり5万円
 年間2回：1校当たり10万円 ※3回以上は応相談
 同社提供の心身健康観察アプリ「デイケン」とメンタルヘルス調査「NiCoLi」(年間12回まで)を併用した3ツールによる多面的アセスメントセットは月額100円(税込)／人(研修ビデオ視聴も付属)

HP

<https://kodomolove.org/school support program/schoolclimate>



06.試験的な導入等

- まずは試験的に狭い範囲で運用してみて、全校導入できないか。
- きちんとメリットとデメリット等を確かめたい。
- 少し手間がかかってもいいから、費用を抑えて実施できないか。
- 本当に効果があるのだろうか。
- 子どもたちにとって、どんないいことがあるのだろうか。

ASSESS



書籍「ダウンロード版 アセスの使い方・生かし方」(2,750円 税込 ほんの森出版)を学年で1冊購入し、学校でデータ入力を行えば、分析データを出力できる。その場合は書籍代以外の費用はかからない。

分析を依頼する場合は先述した費用が発生するが、学級全体の把握が容易な「一覧表」と、具体的なデータの読み方を解説したWeb版専用の「学級診断シート」がつく。

各帳票の読み取りが不安といった悩みに対しては、別途有料のコンサルテーションで対応可能。

Q-U



Q-Uは学校による手採点が可能であるため、検査用紙のみの購入で導入が可能。
また、決まったプラン等を設けておらず、自治体予算で実施、学校の独自予算で実施等、実施主体によって様々な導入方法があり、ニーズに合わせることができる。

シグマ検査



1校につき1回利用できる無料の体験版がある。同社で集計後、教師用個人票と学級一覧表(I)のみ提供される。実施時期は9月～1月。
集計結果を適切に分析するためのオンライン解説会を随時実施。

i-check CBT



Web回答の「i-check CBT」は、実施時間、集計時間ともに短縮でき、記入式よりも20円安く導入が可能。

total ID(東京書籍の共通アカウントシステム)によって、i-check CBTが様々な教育コンテンツやサービスと紐づくので、調査→分析→学習・指導がシームレスになる。

<https://www.tokyo-shoseki.co.jp/spf/myassessment/index.html>

子どものための「学校風土調査」



文部科学省委託事業「子どもみんなプロジェクト」で科学的研究を経て開発された「日本学校風土尺度」をベースとした「子どもの発達科学研究所」の調査プロダクト。

①学校での安全性(安全、決まり)、②教えと学び(授業、こころの教育)、③関係性(子ども同士、子どもと先生、子どもと学校、子どもと集団(多様性・人権)、④環境面(物理的環境、地域・保護者)の4観点から構成されている。無記名回答のため、より正確な調査が可能。

<https://kodomolove.org/schoolsupportprogram/schoolclimate>

07.関連通知の紹介

児童生徒の自殺予防に係る取組について(通知)(令和5年7月10日)

1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進



- 趣旨**
- ・ こどもの自殺対策緊急強化プラン(令和5年6月2日) 1人1台端末の活用等により、自殺リスクの把握や適切な支援につなげるため、有償・無償で利用できるシステムやその活用方法、マニュアル等を整理・作成し、全国の教育委員会等に周知し、全国の学校での実施を目指す。
 - ・ 誰一人取り残されない学びの保障に向けた不登校対策(COCOLOプラン)(令和5年3月31日) 1人1台端末を活用した心や体調の変化の早期発見を推進とされており、これらを踏まえ、1人1台端末を活用した児童生徒の心や体調の変化の早期発見や適切な支援につなげるためのシステム・マニュアル等について、下記の通り整理した。

無償

会社名	システム名	機能	機能詳細
Google	Google フォーム	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート機能(健康観察に活用) ・記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・Google スプレッドシート等へのデータのエクспорт ・Google Apps Script を利用したアラート機能等の実装
Google	Looker Studio 【Google】Looker Studio in a minute - YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・データの可視化 	<ul style="list-style-type: none"> ・Google スプレッドシート等のデータソースから表やグラフ等を作成し、データを可視化 ・データの自動更新や様々なフォーマットのグラフにより、多様な角度からの迅速な分析が可能に
Microsoft	Microsoft Forms	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 ・相談窓口 	<ul style="list-style-type: none"> ・アンケート機能(健康観察に活用) ・記述式アンケート機能等を用いた相談窓口 ・リンク、QRコード、メールによるフォームの共有 ・Microsoft Excel へのデータのエクспорт ・Microsoft Excel のマクロによるアラート機能
Microsoft	Reflect 【Microsoft Teams for Education】Reflect - YouTube	<ul style="list-style-type: none"> ・健康観察 	<ul style="list-style-type: none"> ・既存の質問項目を選択して、アンケートを簡単に作成 ・文字だけでなくキャラクターを使った選択肢 ・健康観察等に特化し、Microsoft Formsをより簡易に利用

Google Looker Studio 活用事例 (埼玉県久喜市)

いじめアンケート(Google フォームで実施)や、学校生活アンケートの結果を表やグラフ化し、フォローが必要な生徒をピックアップしたり、クラス全体の状況を把握している。

Microsoft 365 Education 「Reflect」活用事例 (愛媛県松山市)

Reflectで毎日の心の状態を把握して、生徒の小さな変化やSOSをキャッチし、支援に生かしている。クラスの状態を生徒と一緒に確認し、他者理解を促進している。

Google フォーム、Microsoft Forms 用いた健康観察・相談窓口の作成方法([リンク](#))
 Looker Studio、Reflect の活用事例([リンク](#))